

株式会社ジェイコムイースト 西東京局

2014年度(平成26年)第19回 放送番組審議会 議事録

2014年度 株式会社ジェイコムイースト西東京局 放送番組審議会は、2015年2月19日(水)、西東京局で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

有賀 達郎様 海老澤 麻理子様 粕谷 勝様
橋田 真様 石原 慎一郎様(代理)
下崎 闊様 高木 亮教様 竹部 和典様
松永 和子様

—ご欠席—

山田 豊様

事業者側から局の現況報告及びJ:COMチャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】

(平日情報系番組の休日・再放送化)

委員 平日の昼間の時間帯は、なかなか番組を視られない。休日の昼間に再放送してもらいたい。

事業者 情報番組は、再放送している。『ジモトピ』は、1日3回放送しており、朝、昼、夜とまんべんなく視聴が可能である。

『いまどこ！？イレブン』は、平日の昼間の生放送であるが、同日の夜 8:30 に再放送の編成を組んでいる。また、同番組は、YouTubeでも配信している。

委員 YouTube配信は、エリア外の方も視聴が可能となる。

(取材内容に関して番組の棲み分けについて)

委員 J:COM チャンネルの番組は、生放送バラエティなのか、何度も楽しめるバラエティなのか。アットランダムではなく、視るきっかけを作ってもらえるような番組作りを望む。

事業者 ニーズが各年代層によって異なる。ターゲット層に合わせて編成プランを組んでいるが、お子さん向け、主婦向け、シニア向け、幅広い年齢層向けと番組制作をしている。『ジモトピ』、『いまどこ！？イレブン』のターゲット層は、主婦層から年配者向けの位置づけ

となっている。来年度は、見直しを行い、「デイリーニュース」は、あくまで「ストレート・ニュース」、「楽しい番組」は「楽しい番組」とメリハリを持たせていきたいと考えている。

委員 視聴意識が高まる、チャンネル合わせが習慣になるような番組企画を望みたい。

(市民目線の番組強化を)

委員 コミュニティチャンネルにおいても有名タレントが出演し、一見、民放と見間違えるようなクオリティの番組を放送しているが、夜の時間帯には地域情報に特化した番組を放送して欲しい。各地の公民館で活動しているような高齢者や主婦の方をターゲットにして、各種サークルの紹介を市民目線でスポットを当てた方が視てもらえるのでは。

以前、番組『ぐーたまナビ』で取り上げた子育てサークルなどは、番組に出演したお母さんたちが Facebook で番組情報を拡散していた例がある。

学校向けでは、番組出演にあたって、子供の個人情報の問題もあり、親の許諾が必要となり難しいが、主婦層、シニア層向けの番組なら、地元らしさが出しやすいのではないかと。 “民放でやっているテレビ番組を地元のテレビでも”ということを前面に出したほうが、視てもらえると思う。

事業者 ご指摘の通り、これからも地域密着メディアを目指してまいりたい。

理想のチャンネル像としては、このエリアなら「チャンネル多摩六都」に特化していくべきかと思われる。経営陣含め、コミュニティチャンネルをどういうチャンネルにするかが問われている。

現状では、全部をやることは困難であり、その中でバランスを取りながら、「選択と集中」で反映させていきたい。

『ジモトピ』で地域活動を取り上げるが、現状として視聴習慣までは取り込めていない。現在、地域情報を放送するチャンネルが 11ch ひとつである為、全てここに集約されてしまうが、チャンネル自体に内容を特化させる、例えばたまろくとの内容しか放送しない「たまろくとチャンネル」を構築するのが理想である。

(たまろくと広域情報を)

委員 田無駅前のアスタで、J:COM 協力の下でイベントを開催すると、とても集客力が高く、地域の活性化につながっている。店舗取材では、『ジモトピたまろくと』で面白くコンパクトに編集されており、「現地に行きたくなる」、「興味が湧く」ような取り上げ方がされていた。今後は、田無エリアだけでなく、地域の魅力を広げられるような番組作りをお願いしたい。

事業者 お褒めの言葉を糧に、最大の目的である地域活性化に貢献したい。

(取材先のセレクト、情報収集について)

委員 数多くの取材対象があるが、セレクトはどうされているのか。

事業者 カスタマーセンターに取材依頼が入ることが多いが、極力、全て対応するような体制を取っている。我々は事件、事故の報道ではなく、市民の生活に直結するような生活情報を主眼に置いている。

エリアに限らず生活上、必要な情報であれば、他のエリアでも優先順位を高くセレクトしていきたい。例えば、多摩六都に隣接する地区でインフルエンザが流行していれば注意喚起の為、番組で取り上げている。

(統合によりエリア拡大というが、制作体制については)

委員 今後、取材を増やすということだが、制作体制は大丈夫か。

事業者 人員体制は、今より増員する予定である。取材エリアが偏らないように配慮していき、制作体制の十分でない点においては、こちらから取材するだけではなく、各市民から特派員を募って情報を頂き、一緒に番組を作り、盛り上げていきたいと考える。行政を含めNPO法人、地元企業、市民の皆さんと接点を持ち、情報を吸い上げる為のスキームを構築したい。具体案はこれからであるが、将来的には映像を提供頂く事も想定している。

(私たちのJ:COMチャンネルに)

委員 毎回取材現場で一緒する事が多く、ケーブルテレビは民放と違い撮影から全て少人数で番組制作されているので、応援している。

以前ジモトピたまろくと出演者、古川桂次郎さんを紹介したく、取材させて頂いた事があるが、多くの反響を頂いた。改めてJ:COMを見ている方が多いと感じた。また、先日Facebookで「映像を家宝にする。」という書き込みを拝見し、市民にとってはテレビに映るとするのはニュースであり、見る側も身近な方が映っていると嬉しく思う。先ほど理想は「たまくとチャンネル」とおっしゃっていたが、私たちのJ:COMチャンネル=なくてはならない存在になって欲しいと願う。

イベントや店舗紹介を取り上げる事が多いと感じる。今後は市民活動や地道な活動をしている職人さん等にスポットを当ててもらいたい。来月の東村山市の人権の森(特別番組)放送を楽しみにしている。

事業者 特別番組「ひいらぎとくぬぎ」…東村山市と多摩全生園が制作したハンセン病療養施設のドキュメンタリー。3月14日(土)、15日(日)放送予定。

委員 東村山市内の学校等で上映会を予定している。

(様々な市民の声を反映)

委員 市民から番組映像提供(コミ担)の復活、モニターを募集し、意見交換の場を持たらよと思う。先日、東久留米の七福神めぐりに、J:COMブースがなく、興味のある方に紹介できず残念だった。

「ジモトピたまろくと」が見たいが、シニア世代にとっては朝の放送時間ありがたい。録画環境およびYouTube等が使いこなせない世代への配慮もお願いしたい。

(情報はどこからソースを得るのか、取材依頼方法について)

委員 たまろくと取材実績一覧を拝見すると、各市のバラエティに富んだイベントや面白そうな内容を多く取り上げていると感じる。選択基準やどこからソースを持ってくるのか。行政で取り上げられない情報を提供したいが、どのような形で依頼すればよいか。

市のHPで、市民の方が取材された番組等を掲載しているので、情報を頂きたい。

事業者 生活に密着した情報は優先順位を高くし、番組で取り上げている。情報源はお客様から頂く場合と、こちらで調査する場合があるが、まだ足りていない状況にある。重複するが、各地域の皆さんから実際の生のお声を番組に反映したい為、特派員やモニター制を検討中。また情報によって取り扱う番組を選別している。(鮮度のある内容は生放送で取り上げる等)逆に、何度でも繰り返し見たい有益な情報は(弊社提供サービス)VODやFOD(無料)配信も考えている。民間の方からの情報は、随時お受けする。

告知、プロモーション関連に関しては、様々な媒体を使って、より多くの方に番組をご覧頂きたいと考えている。不足している場合は補い、引き続き情報共有したい。

事業者 行政が取材対象となった場合は勿論だが、市民の方(個人)が出演しているという場合の情報伝達の仕組みがあるとよい。

委員 以上に関連し、どうしたら自分たちのイベントを取材してもらえるか悩んでいる団体もある。JC、ロータリー、ライオンズとの定期的な会議が持てたらよいのでは。

(地域メディアの情報交換会)

委員 メディアと行政、そして地域住民が繋がる、情報交換の場を持ちたいと願う。本日のこの場はとても有益であった。定期的に会合を持てたらよい。

事業者 「たまろくと」のこれからをリアルに伝えるのは、メディアであると認識しており、「たまろくと版メディア会議」を開催し、双方向の交流を深めていきたい。

以上